



WBM のイネーブル化と起動

Detector モジュールの WBM にアクセスするには、まず CLI を使用して Detector モジュールの WBM サービスをイネーブルにし、クライアント IP アドレスから WBM サービスへのネットワーク アクセスを許可します。この操作を実行すると、クライアント Web ブラウザを使用して、ネットワーク接続経由で Detector モジュールの WBM にアクセスできます。

この章は、次の項で構成されています。

- [WBM へのネットワーク アクセスの設定](#)
- [WBM の起動](#)

WBM へのネットワーク アクセスの設定

Detector モジュールの CLI を使用して WBM サービスをイネーブルにし、WBM サービスへのネットワーク アクセスを許可します。必要な設定変更を行うには、Administration ユーザ特権レベルまたは Configuration ユーザ特権レベルの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。Detector モジュールの CLI のアクセス方法および使用方法の詳細については、『*Cisco Traffic Anomaly Detector Module Configuration Guide*』を参照してください。

Detector モジュールの WBM サービスをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 コンソールまたは SSH 接続を使用して、Detector モジュールの CLI にログインします。

ステップ 2 グローバル モードから設定モードに変更します。次のコマンドを入力します。

```
admin@DETECTOR# configure
```

ステップ 3 WBM サービスをイネーブルにします。次のコマンドを入力します。

```
admin@DETECTOR-conf# service wbm
```

ステップ 4 クライアントから Detector モジュールへのアクセスを許可します。次のコマンドを入力します。

```
(configure)# permit wbm ip-addr [ip-mask]
```

引数 *ip-addr* および *ip-mask* には、クライアントの IP アドレスを指定します。

例

```
admin@DETECTOR-conf# service wbm  
admin@DETECTOR-conf# permit wbm 192.168.30.32
```

Detector モジュールの WBM サービスへのネットワーク アクセスの設定が完了したら、CLI を終了し、クライアント Web ブラウザを使用して WBM を起動できます。

WBM の起動

WBM をクライアントから起動するには、次の手順を実行します。

- ステップ 1** Web ブラウザを開き、安全な HTTPS を使用して Detector モジュールの IP アドレスを入力します。

```
https://Detector module-ip-address/
```

Detector module-ip-address 引数は、Detector モジュールの管理 IP アドレスです。

Detector モジュール WBM のログイン ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** ユーザ名とパスワードを入力し、**OK** をクリックします。WBM のホーム ページが表示されます。

Detector モジュールへの接続に失敗した場合は、次のトラブルシューティングに関するヒントを確認してください。

- 有効なユーザ名とパスワードを入力したことを確認します。
- Detector モジュールの管理 IP アドレスを正しく入力し、HTTPS を使用していることを確認します。
- ワークステーションと Detector モジュールのネットワーク接続をチェックします。
- SSH を使用して Detector モジュールに接続できることを確認します。この結果、ワークステーションと Detector モジュールとの間のネットワーク接続が確認されます。
- CLI を使用して、Detector モジュールで WBM サービスがイネーブルになっていること、リモート ワークステーションの IP アドレスからのアクセスが許可されていることを確認します（「[WBM へのネットワーク アクセスの設定](#)」の項を参照）。

